

化粧品 天然成分でなきゃ



「ローズ」「ラベンダー」など花の成分をテーマにした化粧品類のコーナーも＝東京都渋谷区の渋谷ロフトで

増える「自然派」商品

「環境・体に配慮」客が共鳴 紅花など和の素材に注目

「乾燥肌や敏感肌の人がマスカラや化粧水」「ホホバ油」「カカオ脂」……。100種類以上並べられた化粧品の成分を見ると、ほとんどが植物原料だ。東京都の「渋谷ロフト」はこうした商品をナチュラルケアコーナーに集めて、8年ほど前から輸入品を中心に植物原料を強化した。

成分主体の化粧品が増えている。価格は化粧品や美容液が3千～5千円が多い。国内外の数社の製品を扱う、岩切さなと「地球に優しい」フェスタイル志向もあり、一過性のブームではなく、売り上げは今後も伸びるとみる。

「自然派」をうたう化粧品が増えている。基盤がないため中絶はさまざまだが、この数年、無農薬・無化学肥料栽培のオーガニック（有機）植物原料を主体としたもので、天然成分だけでつくられた化粧品が相次いで登場し、支持を集めている。肌トラブルの増加や環境意識の高まりが背景にあるようだ。（森川敬子）

「無添加」の化粧品の基準はない。だが環境意識が高い欧州にはオーガニック原料を使った化粧品が基準や第三者認証機関があり、認証を取得した「オーガニック化粧品」も登場している。

東京都港区の「アテアインターナショナル」は05年、イタリアの有機農業組合の原料を使った化粧品類「アグロナチュール」を東京で発売した。商品開発担当者「消費者の信頼を得るには第三者の認証が必要」と話す。欧州連合（EU）の有機栽培認証を得た原料を9割以上使っているという基準を満たす。

初年度に4億円を売り上げた、名古屋や大阪、福岡にも直店を持つ。2月からは若手世代向けの新ブランドの全国販売を始める。

ドイツのメーカー「タウ」や「マルチ」や「マルチ」も有機認証原料が主体だ。両社の製品輸入元の「おちやろ」（東京都大田区）の斎藤社長は元幼稚園の園長で、20年前、園児の手につける安全なオリーブオイルを知り、04年から本拠地を始めた。「両社と提携を始めた。消費者に安全な製品を生かした製品作りをしている。それがオーガニックに関心のある客の心

「全成分表示」を読み解く力が必要

天然成分主体の化粧品を紹介する「オーガニックコスメ」の本を、環境NGO「アインスガイナネット」の一員として04年から編集してきた水戸上さんによると、メーカーは発行当初は数えるほどだったが06年の本では約50社掲載するなど、この数年で急増している。

「消費者が求めれば、応えるメーカーも増える。製造者も環境運動や自然食品、植物に関心のある人が多い」と水戸上さん。

化粧品は、アレルギーなどの皮膚障害を起こす恐れに響くようにと話す。

国内のメーカーも動き出している。天然成分主体でも、植物エキスを抽出する過程で、乳や防腐剤のために合成化学成分を使わざるを得ない場合が多いが、化粧品販売の「ナチュラリフ」や「アインス」が、東京都中央区は06年、天然成分だけの化粧品を売り出した。

子会社の「アールビー」性皮膚炎だった藤田園長は12年前、母親がアレルギー性皮膚炎で苦しむのを看した。母の病状を緩和させるため、合成成分を減らして、自然成分でつくった化粧品を発売した。肌そのものを健康にし、足りない皮脂や

水分を自然のものでも補う発想に立返った。防腐剤には「からびる」ヒノキチオールや和歌山産のローズマリーエキスを使い、乳成分を減らすことで克服。酸化防止剤は天然成分で着色した口紅や、化粧品防止に「サゴ」を使ったファンデーションなどをそろえた。天然成分なので半年～1年ごとの使用制限がある。

「化学物質で皮膚バリアを形成して有効成分を浸透させる。合成成分は必要ない」と藤田園長。肌そのものを健康にし、足りない皮脂や水分を自然のものでも補う発想に立返った。防腐剤には「からびる」ヒノキチオールや和歌山産のローズマリーエキスを使い、乳成分を減らすことで克服。酸化防止剤は天然成分で着色した口紅や、化粧品防止に「サゴ」を使ったファンデーションなどをそろえた。天然成分なので半年～1年ごとの使用制限がある。

の準備を進めている。協会のサイト <http://joc-jp.com> でもよく使われる成分を解説している。

水戸上さんは「化粧品は、アレルギーなどの皮膚障害を起こす恐れに響くようにと話す。国内のメーカーも動き出している。天然成分主体でも、植物エキスを抽出する過程で、乳や防腐剤のために合成化学成分を使わざるを得ない場合が多いが、化粧品販売の「ナチュラリフ」や「アインス」が、東京都中央区は06年、天然成分だけの化粧品を売り出した。子会社の「アールビー」性皮膚炎だった藤田園長は12年前、母親がアレルギー性皮膚炎で苦しむのを看した。母の病状を緩和させるため、合成成分を減らして、自然成分でつくった化粧品を発売した。肌そのものを健康にし、足りない皮脂や水分を自然のものでも補う発想に立返った。防腐剤には「からびる」ヒノキチオールや和歌山産のローズマリーエキスを使い、乳成分を減らすことで克服。酸化防止剤は天然成分で着色した口紅や、化粧品防止に「サゴ」を使ったファンデーションなどをそろえた。天然成分なので半年～1年ごとの使用制限がある。」